

6月3日

## アフリカの殉教者

カロロ・ルアンガと同志

(19世紀)

～世界で最初の黒人殉教者～



「アフリカ大陸」

聖公会では「アフリカの殉教者」を祝うこの日に、カトリック教会では「聖カロロ・ルアンガと同志・殉教者」を記念する。世界で最初の黒人殉教者であるとも言われるカロロ・ルアンガとその同志にまつわるエピソードを紹介したい。

北アフリカ地域では、1世紀にキリスト教が入り、3～4世紀には最盛期を迎える。しかし7世紀にはイスラム教がこの地域を席卷し、それ以降、キリスト教はほとんど廃れていく。

アフリカにキリスト教が再び伝えられるのは18世紀末の白衣宣教会や19世紀の幼き姉妹会、カプチン会まで待たなければならなかった。

1879年、中央アフリカのウガンダに、ルーデル神父を長とする白衣宣教師の一行が、キリスト教(カトリック)を伝えるために入国した。その当時のウガンダの王ムテサは宣教師たちにとっても友好的で、しばらくは、自由に宣教することを許された。その間に神父たちは教会を建て、求道者も増えていく。さらに診療所をつくったり、孤児の世話をしたりと献身的に働いていく。また王の側近や王に仕える人たちの間からも求道者が生まれる。王の小姓長カロロ・ルアンガもその一人で、ルアンガをはじめ数名は、受洗するまでにいたる。

しかし、ムテサ王の死後、その息子ムワンガが

王になった頃から事態は急変する。すでに宣教師たちはアフリカを離れ、カロロ・ルアンガたちが信仰の指導にあたっていたが、ムワンガ王の同性愛を信徒が批判したことなどをきっかけに、王に激しく迫害されることとなる。

あるとき、小姓の一人がキリスト教を教えていることを知った王は即座に彼を殺し、その夜の内にすべての小姓を逮捕する。まだ20代前半だったカロロ・ルアンガをはじめ15名はそのまま50km先の処刑場まで歩かされる。彼らはしかし、笑ったり、話したり、お互いに励まし合いながらその道を進んでいった。その信仰はかえって強められていたのである。そして処刑場ではムシロに包まれ、生きてそのまま火葬される。

1885年11月15日から1887年1月27日に至るまで、カトリックや聖公会の信者が100名以上迫害を受け、殉教した。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは証びとを召して国々、ことにアフリカに遣わし、その生涯によって栄光を現されました。どうか殉教者たちとの交わりが強められ、わたしたちもその模範に倣い、感謝して忠実にみ国のために働くことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン